

第6回 日本臨床薬理学会 中国・四国地方会を終えて

香川大学医学部附属病院薬剤部

小坂 信二

会期：2022年7月2日（土）10：45～16：30

会場：オンライン Web 開催

会長：西山 成（香川大学医学部薬理学教授・香川大学副理事）

副会長：小坂 信二（香川大学医学部附属病院薬剤部 教授）

大会顧問：片岡 郁雄（香川大学理事・副学長）

テーマ：創発研究のススメ

1. 開催概要

第6回日本臨床薬理学会中国・四国地方会を2022年7月2日（土）に「創発研究のススメ」をテーマとして昨年と同様に感染対策を考慮し完全Web形式で開催した。構成はA会場、B会場と2会場を設け、A会場では臨床試験支援業務と入院・外来・地域を繋ぐための多職種連携をテーマとしたセッションとし、B会場では第6回黒潮カンファレンスとの合同学会企画として開催した（Table）。

新型コロナウイルス感染症も第7波と依然不透明な状況で、今回はWeb開催ということもあり、一般演題はなく、すべてシンポジウム企画、スポンサードセミナーおよびスポンサードシンポジウムとさせていただいた。

2. 参加者の状況

第6回日本臨床薬理学会中国・四国地方会ホームページと学会本部から会員へのメール等で概要を周知した他、A会場合同セッションの共催団体である香川県病院薬剤師会のホームページにおいても開催案内を掲示し周知を図った。また、学生の参加費は、大学院生も含めて全員無料とした。広報とWeb形式での開催が功を奏し、スタッフ、座長および演者を除き115名の事前登録があった（Figure）。発表者や座長などの招聘者も加えると合計で149名の参加であった。

前回同様、一般演題の募集は行わなかったが、中国・四国支部以外からも38名の視聴参加がありオンラインWeb開催のメリットを発揮できたと思う。また、合同セッションは臨床試験および業務に関連した内容とし、活発な意見交換が行われた。合同学会企画については最先端の研究内容

について発表があり、五感調節の臨床応用や生物の体液保持機構に関する最新情報を参加者と情報共有およびディスカッションが行われ、学術的な内容に関して有意義な学会となった。

3. A会場合同セッション1

「COVID-19禍における臨床試験支援業務」

本セッションでは、COVID-19の蔓延に伴い大きく変わった臨床試験支援業務について、各施設より新たな臨床試験支援業務としてリモートアクセスの現状と対応、接続システムの構築と運用、オンサイトモニタリングなどCRCや医師の意見などについての発表があり、また、治験調整事務局として医師主導治験の継続、推進を図るために行ってきたさまざまな工夫、対応を具体的な事例と共に紹介があった。さらに、今後の臨床試験支援業務の展望についても議論が交わされ、各施設における臨床試験支援業務について発表があった。

4. A会場合同セッション2

「多職種連携による薬学的課題への取り組み方」

本セッションでは、高齢化に伴い地域包括ケアシステムの拡充が求められているなか、香川県における地域連携による薬学的な管理の現状について発表が行われた。医師、病院薬剤師、保険薬局薬剤師そして行政よりそれぞれの立場で現状の地域包括ケアに関わる内容の紹介があった。香川県では令和元年度から令和3年度にかけて実施した病院・薬局・地域がつながる連携体制構築事業を実施しており、その概要と併せて香川県の状況について発表が行われた。

Table 第6回日本臨床薬理学会中国・四国地方会 日程表

*B会場は、第6回黒潮カンファレンスとの合同セッションとなります

2022年7月2日(土)			
第6回日本臨床薬理学会中国・四国地方会		合同学会セッション	
会場	A会場(WEB)	会場	B会場(WEB)
場所	Zoomウェビナー	場所	Zoomウェビナー
8:00		8:00	
9:00	9:00-9:45 日本臨床薬理学会中国・四国地方会 理事会 (本プログラムとは別のZoomをご案内いたします)	9:00	
10:00	10:45-11:00 開会式	10:00	10:00-12:00 合同学会企画1 「五感調節による生体制御」 座長:永富 太一、岡崎 慎一郎 演者:矢野 裕一朗、北岡 志保、岡嶋 克典、池野 文昭、野出 孝一
11:00	11:00-12:30 臨床薬理学会・薬理学会合同セッション1 「COVID-19禍における臨床試験支援業務」 座長:白石 佳世、北原 隆志 演者:西岡 妙子、下河辺 純一、佐藤 康敬、山内 紀子 共催:香川県病院薬剤師会	11:00	
12:00	日病薬病院長学認定薬剤師制度認定プログラム	12:00	
13:00	12:45-14:15 スポンサードシンポジウム 「SGLT2阻害薬のミステリーを解き明かす」 座長:島田 美樹、北原 隆志 演者:稲葉 有香、西山 成、岸 拓弥 共催:大正製薬株式会社	13:00	12:30-13:30 スポンサードセミナー1 「ゲノムで変わる!?胃がん薬物療法」 座長:小坂 信二 演者:辻 晃仁 共催:第一三共株式会社
14:00		14:00	13:45-14:45 スポンサードセミナー2 「2型糖尿病合併CKD治療の新展開」 座長:村尾 孝児 演者:祖父江 理 共催:バイエル薬品株式会社
15:00	15:00-16:30 臨床薬理学会・薬理学会合同セッション2 「多職種連携による薬学的課題への取り組み方 ～入院・外来・地域を繋ぐために～」 座長:座間味 義人、島田 美樹 演者:篠永 浩、十枝 めぐみ、矢野 禎浩、宮脇 幸子 共催:香川県病院薬剤師会	15:00	15:00-17:00 合同学会企画2 「生物の体液保持機構と夏眠」 座長:和田 孝一郎、筒井 正人 演者:北田 研人、今野 紀文、阿見彌 典子、鈴木 美和、名黒 功、黒尾 誠
16:00	日病薬病院長学認定薬剤師制度認定プログラム 16:30 閉会式	16:00	
17:00		17:00	

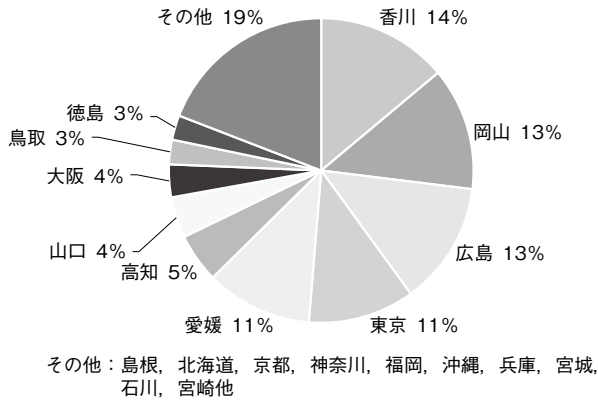


Figure 都道府県別事前登録者の割合 (n = 115)

5. B 会場合同学会企画 1「五感調節による生体制御」

五感（視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚）とは、各感覚受容器（眼・耳・皮膚・鼻・舌）を通して環境の物理情報から得られる感覚知覚情報のことである。これらの感覚知覚特性には個人差があり、また同じ人物でも日々変動するため、従来「誤差」や「ばらつき」として取り扱われてきた。本シンポジウムでは、感覚特性に対して科学的かつ客観的な評価ができる可能性、感覚系を制御することで臓器機能の調整や変化を促し、ヒトの体や健康に影響を与える可能性などについての講演、議論を行った。また、このような革新的な研究成果を、どのように大学から一般社会へ商品化していくか、などについても講演、議論を実施した。

6. B 会場合同学会企画 2「生物の体液保持機構と夏眠」

従来、生体における体液の恒常性は主に腎臓の尿産生に

よって制御されていると考えられてきた。最近の研究では、腎臓に加えて、肝臓、筋肉、皮膚、心血管・神経系など、さまざまな臓器・器官の連携が、体液保持の要であることが報告されている。また、これら全身性体液保持機構の特徴は、肺魚などの生物が進化の過程で体液保持のために獲得した適応反応である「夏眠」と酷似している。よって、全身性体液保持機構はさまざまな生物に共通して保存されている可能性が考えられる。本シンポジウムでは、肺魚、イカナゴ、イルカなどのさまざまな生物における全身性体液保持機構や、本機構を制御する因子（浸透圧変化、FGF21 など）についての講演と討論を行った。

7. 第7回に向けて

第6回日本臨床薬理学会中国・四国地方会開催に先立ち9時より中国・四国地区世話人会がWebで開催され、第7回は山口大学医学部附属病院 薬剤部 北原 隆志教授が会長となり、2023年7月1日（土）予定で開催されることが決定した。

8. 終わりに

第6回日本臨床薬理学会中国・四国地方会の開催にあたり日本臨床薬理学会本部、日本臨床薬理学会中国・四国支部世話人の先生方、製薬会社、運営会社、地方会学会事務局はじめ多くの皆様のご支援・ご協力により成功裡に終了できましたこと、心より御礼申し上げます。また、学会全体の構成について多大なるご指導を賜り、学会の配信会場として香川大学 幸町キャンパス イノベーションデザイン研究所を使用させていただいた片岡 郁雄先生（香川大学理事・副学長）にこの場をお借りして御礼申し上げます。